

道東のオオハコベ(ナデシコ科)

千歳市 五十嵐 博

はじめに

オオハコベ(エゾノミヤマハコベ)
Stellaria bungeana var. *stubendorffii* は「低地～山地の林縁や湿り気のある草原に生える高さ 30-80cm の多年草。茎は直立し、下部で分枝し、一側または両側に軟毛と腺毛がある。葉は卵形～卵状長楕円形、長さ 4-8cm、幅 2-3cm、鋭尖頭。下面の中脈と縁には毛があり、下部の茎葉

文献調査

横山(1951)では浦幌、池田などの産地が報告されている。

伊藤ほか(1994)での分布支庁は胆振、石狩、十勝、釧路、網走の5支庁である。

滝田(2001)は白糠町和天別の標本で描いている。花期は5月下旬～6月の記載である。

梅沢(2007)は6月14日、足寄町の撮影



図1 オオハコベ 2007.6.1 紋別市

には短い柄がある。花期は5-8月。花は径約1.5cm、白色、茎頂の集散花序につき、花柄には毛がある」(門田2017)。

オオハコベは過去に道東各地で見っていた。2014年以降、現地確認していなかった種なので2020年は分布穴埋め調査を行った。調査結果を報告する。

である。「茎の片側に毛の列があつて腺毛も生え、葉の縁にも毛がある。花弁はがく片より長く、花柱は3本」の形態説明と「低地～低山のやや湿った林縁や草地」に生育環境を書いている。梅沢(2018)の記載も同様であるが産地記載がない。

門田(2017)では「北海道に分布し、アジア(北東部)・シベリア・ヨーロッパ